



みさと
島田 実桜都さん

●天明小学校 6年

わたしの助けでみんなを笑顔に

わたしの将来の夢は、看護師になることです。

わたしの母は、看護師です。わたしは母が働いている病院に何回か行ったことがあります。患者さんにとってもやさしく接している母の姿を見て、とてもかっこいいと思いました。そして、わたしも困っている人や病気の人を助けてあげたい、笑顔になってもらいたいという気持ちが強くなりました。

夢を叶えるために、今は一生懸命勉強をがんばっていきたいと思います。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ



風さわやかに、新緑が目にしみる季節となりました。先月は、入学式、入社式、人事異動などのほか、4年に一度の市長選挙・市議会議員選挙が行われたこともあり、せわしなく過ぎて行ったような気がしますが、皆さんはいかがでしたか。

選挙が終わり、市政の執行体制・推進体制も固まりました。私も、市民の皆さんからの信託を受け4期目の市長職に就任することができました。今後4年間、皆さんの期待に応えられるよう地方創生を推進するとともに、佐野市の更なる飛躍に向け精一杯頑張ってまいります。

さて、ゴールデンウィークを迎え、市内各所でもさまざまなイベントやスポーツ大会が行われております。先月28日から佐野市国際クリケット場で、東アジア太平洋地域の女子チャンピオンを決める「女子ワールドT20東アジア太平洋予選」が、日本をはじめ、パプアニューギニア、サモア、バヌアツの4か国により開催されております。世界大会進出に向け、日本の活躍を期待しております。

13日から第4回石井琢朗杯選抜中学野球佐野大会が、関東・東北の26チームが参加して、佐野市運動公園野球場などで開催されます。春季全国大会で4強に入った地元の「佐野ボーイズ」も参戦します。皆さんも応援してください。

その他のイベントとして、13日に「くずうフェスタ」が開催されます。昼の部は葛の里壱番館を会場に開催され、夜はあくどプラザ周辺で恒例の打ち上げ花火が行われます。ひと足早く夏気分を満喫してください。

この秋全国山城サミットが開催される唐沢山では、ツツジが見ごろとなります。暖かな陽気に誘われて、散歩やスポーツなど戸外活動には絶好の季節です。皆さんも外に出て体を動かしてみたいかがですか。

岡部正英



今回の表紙 「春の国指定史跡 唐沢山城跡」平成27年4月29日撮影

11月25日・26日に「全国山城サミット」の開催が決定している唐沢山城跡では、4月下旬から色鮮やかなツツジが見頃となります。新緑や満開のツツジなど、春の景色をぜひ訪れてお楽しみください。

キラリ★ 話題の「ひと」

佐野パパプロジェクト e街 佐野奉行所の皆さん

○プロフィール

平成29年2月に本格的に始動した「パパプロ e街佐野奉行所」。佐野市を愛するパパたちが、新しい佐野市の魅力を発掘し、市内外にPRします！



パパの視点で地域活性化！

佐野市を愛するパパ世代の方が中心となって、佐野市の新しい魅力を発掘し、新産品として市内外に売り出そうという活動を始めています。

グループの名前は、「パパプロe街 佐野奉行所」。
中心となるメンバーは、パパと呼ばれる世代の男性10名です。



このプロジェクトは、パパ世代だからこそ気づく地域の魅力を洗い出し、それをきっかけにして、佐野市の新名物となるような人・もの・場所などを探し出し、それを開発・育成し、売り出していくものです。

この活動によって生まれた新しい産品が、地域を活性化し、さらに新しい地域ビジネスを作り出すことにより、新たな雇用を作り出すことも目的としています。

メンバーの皆さんにお話を伺うと、「この活動を通して、佐野市で活躍するパパたちの姿を見ている子どもたちが、大人たちが楽しそうで、頑張っているな、そうした大人がいる佐野市はいいなと感じ、子どもたちの佐野市を

愛する気持ちが、より大きくなっていったら嬉しい」と話してくださいました。

何をどんなふう売り出していくかは、メンバーの皆さんが考えていくため、どんな取り組みを行っていくかは、今後、集まった方々の話し合いで決めていきます。

昨年度はセミナーを3回開催し、各地域で実際に活躍している方をお呼びして話を聞いたり、メンバーが佐野市の魅力の新たな洗い出しを行うなど、新産品の発掘に向けての勉強会や、ミーティングを行いました。

今後は新産品の決定に向けて、さらに深く佐野市の魅力を発掘するなど、引き続き活動していきます。活動の内容は、今後ホームページやSNSなどで発信していく予定ですので、ぜひご覧ください。



「コシヤエル」は 料理をするときによく使う

建物を建てたり、物を作ったりすることを、共通語では、「こしらえる」「つくる」などといいます。

そのうち、「こしらえる」が訛なまって、いろいろな方言が生まれました。コシヤエル・コシエル・コシエル・コセル（コセル）など、今なお多くの人が使っています。「こしらえる」はある材料を用いて、物をつくり出すというのが本来の意味です。「お祭りには、だんごやばた餅なんかコシヤエたりしヤンス（ます）よ」

「犬小屋をコセルたら、子犬でも飼うべとモッテ（思つて）さあ」「つくる」に比べて、コシヤエル・コセル・・・等の使用も少なくないが、最近では、「夕飯のおかずは何をコシヤエテルン（つくっているの？）」とか、「味も塩加減もイヤンベだ（味加減がいい）ねえ。どうやってコシヤエタン？」のように、もっぱら料理で使うことが多くなりました。

今では死語同然、ほとんど使われなくなってしまいましたが、出産することを、コシヤエル・コシエル・コセルなどともいいました。

「赤ちゃんがほしうっていつてたけど、あの奥さん、何人コシエタンベ？」

ところで、大正から昭和の初め頃まで、生む・出産することをナスともいっていました。ナスは「出産する」のもっとも古いことばです。

「あそこんち（の家）の嫁さんは、二人目の元気な女のアカッコ（赤ちゃん）をナシタンだつてガネ」

（市民記者 森下喜一）

